

(6) 桑

桑

桑（稚蚕用）

1. 対象地域 県下全域
2. 土 壌 全土壌
3. 栽植本数（本／10 a） 800～1,000
4. 目標収量（kg／10 a）
5. 栽培型と主な作業

月旬 栽培型	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下	品種
春秋用			①		●—●	②		●—●			■		一ノ瀬
夏秋用			①		①		●—●				■		
主 要 作 業 名			施肥 除草 剤 散 布		(春秋) 収 収 穫 穫 始 終 め り 追 肥 除 草 剤 散 布		(夏秋) (春秋) 収 収 収 穫 穫 穫 始 終 始 め り め り 収 穫 終 り				石 有 灰 機 質 物 肥 施 料 用 散 布		

6. 施肥基準（kg／10a）

施 肥 時 期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	苦土石灰	微量元素
施肥	11月上旬	18.4	14.4	25.6	100
追肥	3月上旬	5	4	2	
施肥	6月上旬	4	3	2	
計		27.4	21.4	29.6	100

7. 施用上の留意点

- (1) 有機物（牛糞オガクズ堆肥1,000kg）および石灰質肥料は秋冬期に施す。

8. 施肥量の計算（堆肥からの成分補給量を施肥基準量に算入する）

施肥量＝施肥基準－堆肥の有効成分量

堆肥の有効成分量＝施用量×堆肥現物当たりの成分含有率×乾物割合×肥効率
 （成分表示が現物表示となっている場合は、乾物割合は省く）

※堆肥の有効成分量の計算は、「有機物の肥効率と有効成分量の求め方」（p47）を参照。

桑（仕蚕用）

1. 対象地域

平坦地、中間地
2. 土 壌

全土壌
3. 栽植本数（本／10 a）

800～1,000
4. 目標収量（kg／10 a）

マユ 100～130
5. 栽培型と主な作業

月旬 栽培型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
春秋用													一ノ瀬
夏秋用													
主 要 作 業 名			施肥 除草 剤 散 布		(春秋) 収 穫 始 め	追 肥 除 草 剤 散 布		(夏秋) 収 穫 始 め		(春秋) 収 穫 始 め	(春秋) 収 穫 終 り (夏秋) 収 穫 始 め	石有 灰機 質物 肥施 料用 散 布	

6. 施肥基準（kg／10a）

施 肥 時 期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	苦土石灰	微量元素
施肥	3 月上旬	12	6	6	
追肥	6 月上旬	18	9	9	
追肥	8 月上旬	3			
施肥	11月中旬	1.7	3.3	5.3	100
計	34.7	18.3	20.3	100	

7. 施用上の留意点

- (1) 晩秋蚕期に葉の硬化が懸念される場合には、8月上旬に追肥を行なう。
- (2) 有機物（牛糞オガクズ堆肥1,000kg）および石灰質肥料は秋冬期に施す。

8. 施肥量の計算（堆肥からの成分補給量を施肥基準量に算入する）

施肥量＝施肥基準－堆肥の有効成分量

堆肥の有効成分量＝施用量×堆肥現物当たりの成分含有率×乾物割合×肥効率
（成分表示が現物表示となっている場合は、乾物割合は省く）

※堆肥の有効成分量の計算は、「有機物の肥効率と有効成分量の求め方」（p47）を参照。

桑（牡蛎用）

1. 対象地域 高冷地
2. 土 壌 全土壌
3. 栽植本数（本／10a） 800～1,000
4. 目標収量（kg／10a） マユ 100～130
5. 栽培型と主な作業

月旬 栽培型	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下	品種
春秋用			■		①	●	●		●	●		■	一ノ瀬
夏秋用			■		①		●	●				■	
主 要 作 業 名			施肥 除草 剤 散 布		(春秋) 収 穫 始 め	追 肥 終 り 除 草 剤 散 布	(夏秋) 収 穫 始 め	収 穫 終 り	(春秋) 収 穫 始 め	収 穫 終 り		石 有 機 質 肥 料 散 布	

6. 施肥基準（kg／10a）

施 肥 時 期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	苦土石灰	微量要素
施肥	3月上旬	15	8	8	
追肥	6月上旬	15	8	8	
施肥	11月中旬	1.7	3.3	5.3	100
計	34.7	18.3	20.3	100	

7. 施用上の留意点

- (1) 晩秋蚕期に葉の硬化が懸念される場合は、8月上旬に追肥（N3kg）を行なう。
- (2) 有機物（牛糞オガクズ堆肥1,000kg）および石灰質肥料は秋冬期に施す。

8. 施肥量の計算（堆肥からの成分補給量を施肥基準量に算入する）

施肥量＝施肥基準－堆肥の有効成分量

堆肥の有効成分量＝施用量×堆肥現物当たりの成分含有率×乾物割合×肥効率
（成分表示が現物表示となっている場合は、乾物割合は省く）

※堆肥の有効成分量の計算は、「有機物の肥効率と有効成分量の求め方」（p47）を参照。